

寺島ナス(蔓細千成)

隅田川沿いの肥沃な土地である寺島村(現在の墨田区)を中心に栽培され、千住や神田に出荷された。都内の主要品種「千両二号」と比較して早生で生育は早い。茎は細く、開張性で発生は多い。葉は小型で、草丈はやや低い。果実はやや丸みを帯びた小卵形で漆黒色である。色は果実が大きくなるに従い、淡くなりやすく、特に高温と乾燥で艶なし果が多くなる。



1. 作型

作型は、慣行品種「千両二号」に準じる(表1)。

トンネルは、主に保温と生育促進を目的に行うので、ベタロンやユーラック等を使用することを推奨する。

表1 「寺島ナス」の作型

月 作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
早熟 (トンネル)	○	△	◎	∩	∪	■						
普通露地		○	△	◎		■						

○: 播種、△: 接ぎ木、◎: 定植、∩: トンネル開始、∪: トンネル終了、■: 収穫期間

2. 施肥管理

「千両二号」に準じて行うが、「寺島ナス」は草勢が弱いので、なるべく強めに管理する(表2)。特に追肥の肥効が途切れないようにこまめに施し、乾燥しないように適時灌水する。

表2 「寺島ナス」の施肥例(10aあたり)

	肥料	施肥量 (kg)	成分量(kg)		
			窒素	リン酸	カリ
基肥	堆肥	2,000			
	化成肥料(8-8-8)	100	8	8	8
	配合肥料(8-8-8)	100	8	8	8
	重焼リン	40		14	
	FTE(微量元素)	5			
追肥	化成肥料(16-0-16)	125	20		20
合計			36	30	36

備考 ①堆肥は植物質が多いものが良い。

②追肥は4~5回に分けて施用する。

3. 栽培管理

(1) 播種

慣行栽培に準じるが、自家採種の種子は発芽率や充実度にバラツキがあるので、播種数は多めにする。セルトレイは128穴が適当である。市販の果菜類用の育苗用土であれば問題ない。用土に肥料を添加する場合は、十分に混和させる。播種後は、ビニルハウス内にサーモスタットを備えた電熱線を敷き、その上にセルトレイを並べて加温する。育苗ハウスの条件にもよるが保温のためにユーラックカンキ2号または4号を被覆し、温度調節する。穴なしフィルムの場合は、マルチカッターなどで穴を空け晴天日の日中に気温が30℃を越えないようにする。

(2) 育苗管理

育苗温度は一定(恒温管理)でもよく発芽する品種もあるが、概して揃いが悪くなりやすいため、揃って発芽させるためには「寺島ナス」も変温管理とする。昼間は、気温28～30℃を目安とし、夜間は20～23℃程度に管理する。一定の高い温度で発芽させると生育が揃いにくく、その後の生育も揃わなくなるので特に注意する。出芽後は昼温を25℃に下げて管理する。灌水は徒長させないようにするが、乾燥には弱いので乾かないように努める。

トレイから抜けるようになったら鉢上げし、並べて管理する。葉が触れ合うと徒長しやすくなるので、適時、鉢をずらして、スペースを空けるようにする(図1)。

(3) 接ぎ木

台木品種にもよるが、接ぎ木によって草勢が強まり、側枝の発生が多くなる。着果数や肥大性に優れ、可販果率は自根と変わらないが、収量は増加する。

接ぎ木は、一般的な方法で行う。台木は土壌病害の予防と草勢強化が目的であるので、慣行栽培と同様に半身萎凋病に耐病性がある「トナシム」や「トルバム・ビガー」を使用するとよい。穂木と台木では生育が異



図1 育苗

なるので播種日をずらす必要があり、台木の生育は穂木よりも遅いので早めに播種する（「トナシム」では穂木の14日ほど前が目安）。

方法は「割り接ぎ」でもよいが、接ぎ木チューブを用いた斜め合わせ接ぎは、カミソリ刃があれば容易にでき成功率も高い。接ぎ木床はピアレスフィルムのようなある程度光は通すが、熱線を遮り遮熱・保湿効果が高いフィルムがよい。接ぎ木直後は28～30℃で管理し、2日後に25℃、さらに2～3日後に20℃として様子を見る。6日目以降は徐々に換気を行うようにする。順化後は10.5 cm～12 cmの大きめのポットに鉢上げして根の老化を防ぐ。

（4）定植方法

ベッド幅70 cm、株間60 cmを基準とし、通路幅は140～170 cmを目安とし、できる限り広いほうが収量も品質も優れる。仕立てる主枝数が少ない場合には、株間は狭くてもよい。マルチも慣行と同様に黒で問題はないが早植えで地温が低いときは透明でもよい。定植が4月中であれば保温用のトンネルは必要である。

（5）定植後の管理

「千両二号」は主枝4本仕立てのV字誘引とし、側枝は1果または2果どりで切戻しを行うと高品質で収量も多くなるが、「寺島ナス」の管理はやや異なる。葉は小型でコンパクトな草姿のため、単位面積あたりの枝数を増やしたほうがよいと考えられる。仕立てはV字誘引とし、主枝数は、株間60 cmの場合は株あたり6本とする。強い主枝が6本決まらない場合には、最初は4本としてその後の側枝から強い枝を伸ばし、最終的に6本とする。側枝は放任すると込み合うので切戻しを行う。ただし、草勢が弱いときは頻繁に切戻しはしない。

（6）生育判断

一般的なナスの草勢判断と同様で、第一に花の状態をみる。健全な生育の時の花は色が濃く大きく、柱頭（雌しべ）が葯（雄しべ）より長く飛び出ている長花柱花の状態となる。花の位置は、茎の先端から15～20 cmの位置に開花し、開花位置より上に3～4枚の葉が展開している。一方、開花位置が茎の先端から10 cmより短く、花の上に展開葉が1～2枚の場合には、草勢は弱い。花の質は悪く、小型で中花柱花や短花柱花となる。肥



図2 生育盛期（8月下旬）

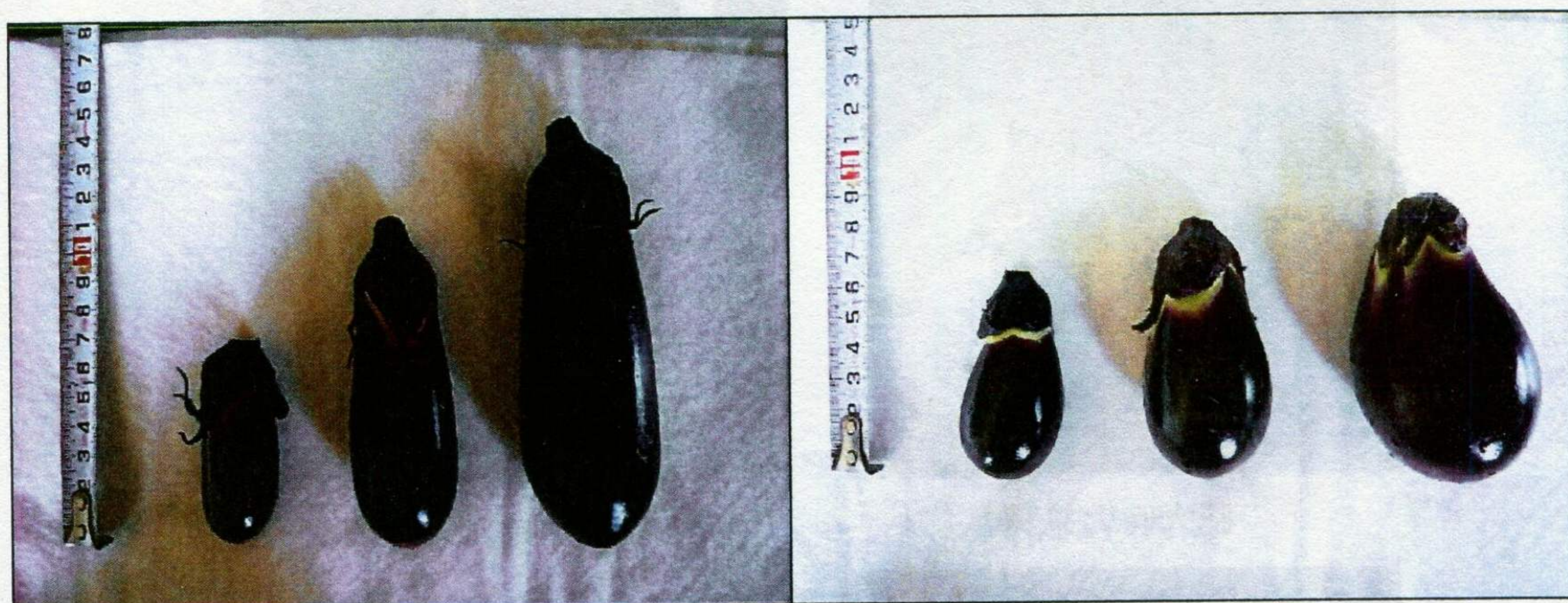
料が切れてくると、葉は小さくなり、下葉から黄色くなるので追肥や灌水により肥効を高める。

生育が順調であれば、「千両二号」並みの伸長性がある。葉は小さめであるが、側枝数が多く葉はよく茂る（図2）。基部の茎の太さは「千両二号」よりも太い。

4. 収穫方法

「寺島ナス」で最も重要なのが収穫サイズである。特に果実サイズによる品質の変化が大きく、収穫サイズが大きくなるほど色ボケ果や艶なし果が増える傾向が強い。そのため長さ7～8 cm、重さ35～40 gほどで収穫するのが、収量や品質面から判断すると適当なサイズといえる（図3）。なお、「千両二号」の慣行的な果実サイズは、長さ13～14 cm、重さ100～110 gである。

「寺島ナス」は、果実サイズが小さいほど糖度が高くなる傾向があり、比較的小さい果実で収穫すれば色も食味も優れ、収穫できる果実数は多くなる。Brix 糖度は、「寺島ナス」が「千両二号」より有意に高い。しかし、果実サイズが小さいため一般的なナスに比べれば収量は少ない。主枝数を6本にした場合、収穫個数は「千両二号」の2倍になるが、収量は75%程度（約5～6 t）である。



「とげなし千両二号」

「寺島ナス」

図3 果実サイズと形状

5. 病虫害防除

慣行栽培と同様に半身萎ちょう病やうどんこ病などに注意し、薬剤防除する。特に、高温乾燥時には、ダニの発生に注意する。

6. 採種

（1）人工交配

10月に入ると気温が下がり、充実した花が確保できなくなる。果実の成長も進みにくくなるため、それまでに採種する果実を成熟させることが重要である。できれば8月までに

採種株を決め、生育の良い枝についている健全な花を選んでおく。開花前に袋掛けを行い、他品種の花粉が付かないようにする。

(2) 収穫・採種

果実は開花後3～4週間ほどで肥大が完了する(図4)。果実の色が褐色に変わった頃が採種用果実の収穫適期である。8月中旬開花の場合、約2ヵ月で収穫できる。収穫後は、10日～2週間ほど室温で追熟させて採種する。採種は、ボールなどに水を張り、その中で果実を揉みながら種子を洗い落としていくと採りやすい。

(3) 乾燥・貯蔵

種子についている余分な果肉片を洗い落とし、新聞紙などの上に広げ、よく乾燥させてから乾燥剤とともに袋に入れて冷蔵保存する。種子数は、1果あたり2000粒以上採種できる。



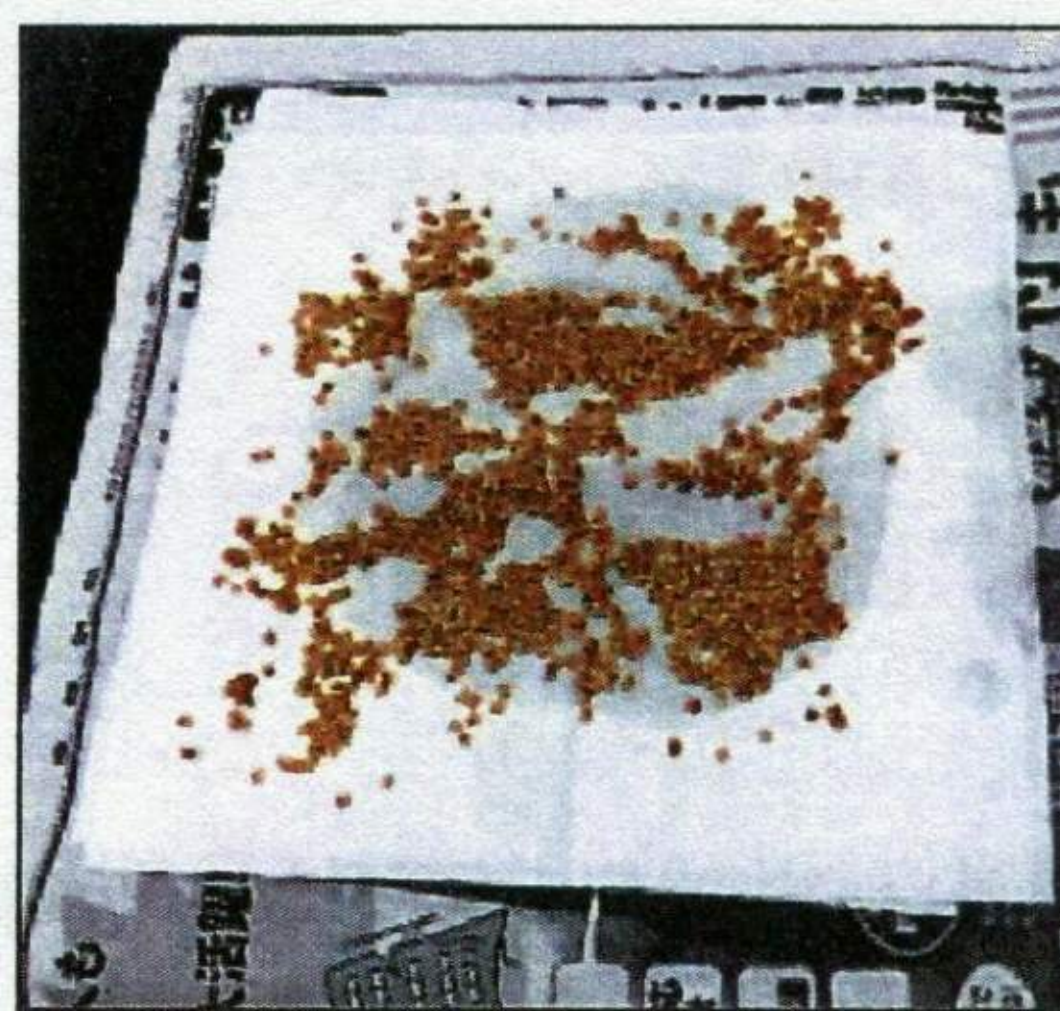
肥大時の果実



採種時の果実



採種



種子の乾燥

図4 採種